

平成10年度脳卒中再発予防調査研究事業（地域保健特別対策事業）

IV 調査結果

1 モデル4センターの脳血管疾患死亡について

モデル4センターの脳血管疾患死亡について、5年ごとの脳血管疾患の年齢調整死亡率を3期（S58～62年、S63～H4年、H5～9年）に分けて算出し、4センター及び島根県の比較を、全年齢及び壮年期（40～69歳）の2つに分けて分析した。

(1) 男性の脳血管疾患年齢調整死亡率の推移

図-1 センター別脳血管疾患年齢調整死亡率の推移（男性）
（全年齢（40～99歳））

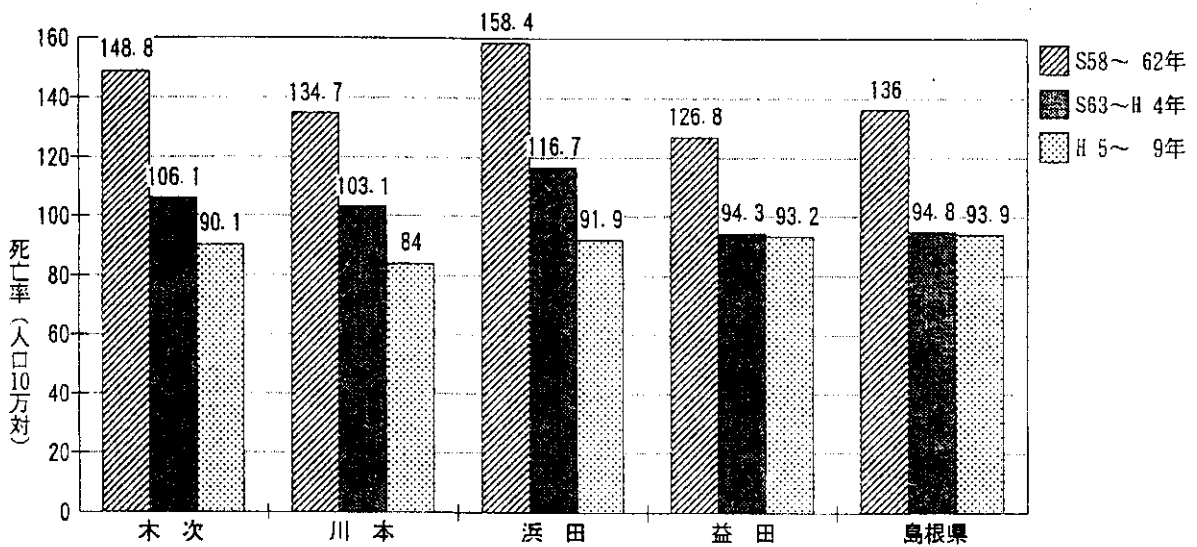
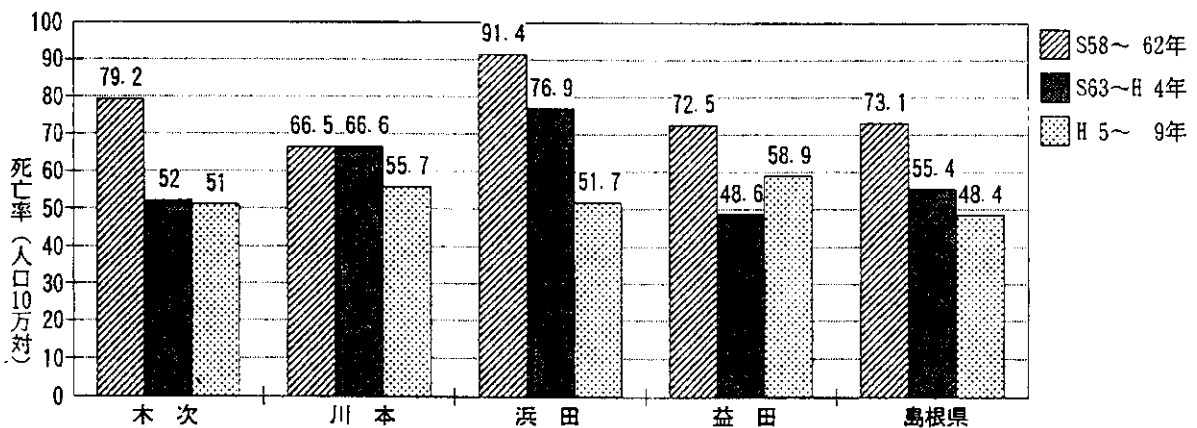


図-2 センター別脳血管疾患年齢調整死亡率の推移（男性）
（壮年期（40～69歳））



男性の4センターの年齢調整死亡率は全年齢、壮年期ともにいずれのセンターとも県より高い死亡率となっている。

全年齢では浜田、木次で高く、壮年期では益田、川本が高い。

死亡率の推移でみると、益田の壮年期を除いては年々減少しているが、全年齢ではS58～62年からS63～H4年の減少と比べ、最近5年間の減少は鈍化している。

(2) 女性の脳血管疾患年齢調整死亡率の推移

図-3 センター別脳血管疾患年齢調整死亡率の推移（女性）
（全年齢（40～99歳））

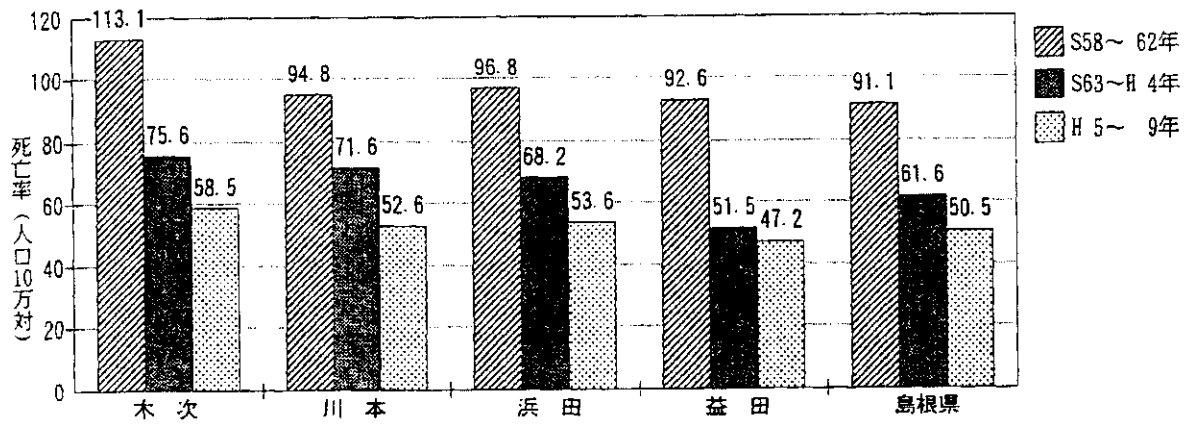
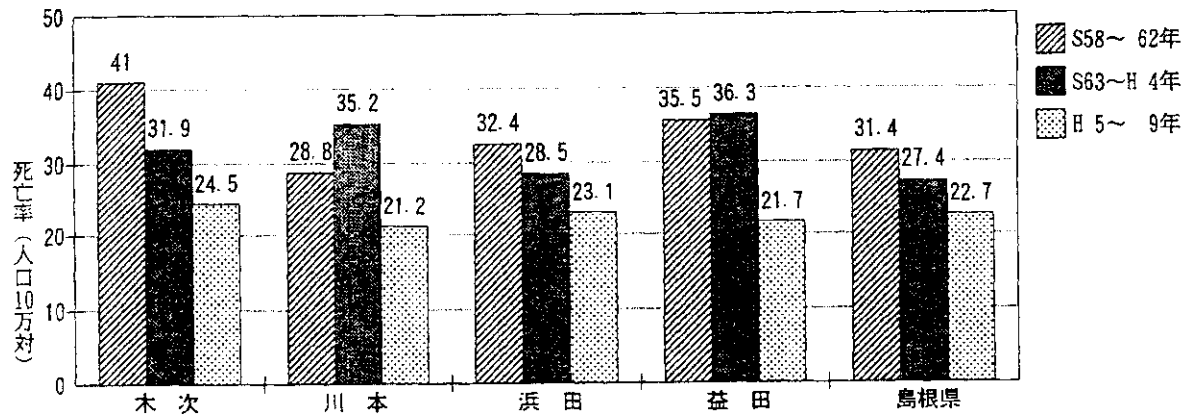


図-4 センター別脳血管疾患年齢調整死亡率の推移（女性）
（壮年期（40～69歳））



4センターの年齢調整死亡率は全年齢では高い方から順に、木次、浜田、川本、益田であり、益田以外は県よりも高い死亡率である。壮年期でも、木次、浜田が高く、県よりも高い死亡率である。死亡率の推移でみると、全年齢、壮年期共に減少しているが、全年齢ではS58～62年からS63～H4年の減少と比べ、最近5年間の減少は鈍化している。

2 モデル4センターの脳卒中発症について (H6年～9年)

(1) 4センターの脳卒中発症登録者数の推移

図-5 センター別脳卒中発症登録者数の推移

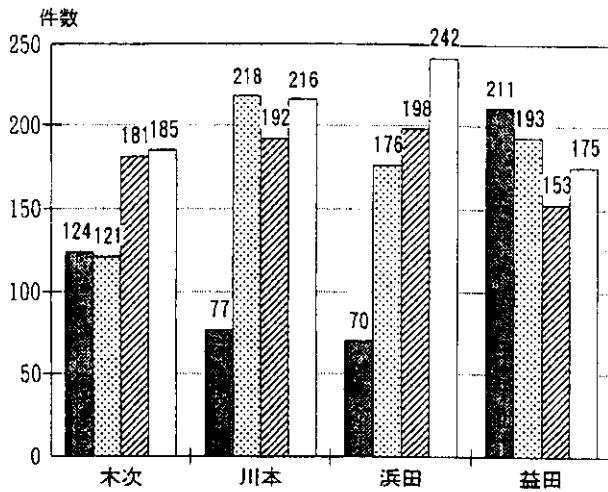
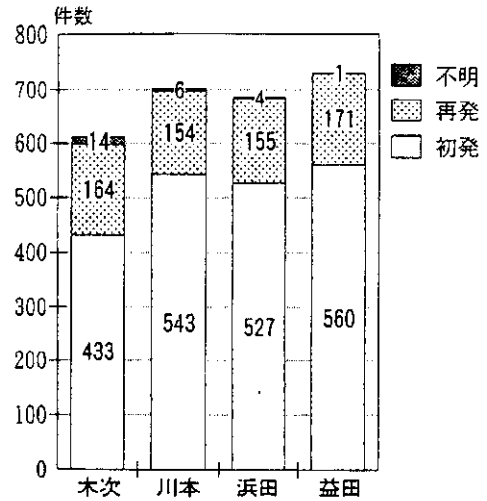


図-6 センター別脳卒中発症

初発・再発者の状況 (H6～9年)

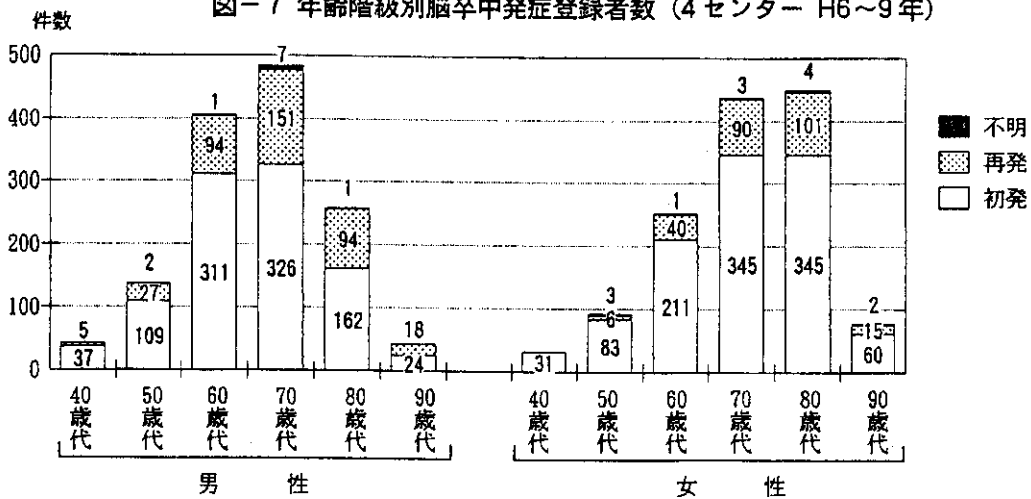


4センターの脳卒中発症登録数は、県内の69.7%を占め、益田のセンターを除いて登録数も増加傾向にある。

表-1 健康福祉センター別登録状況 (H10年)

	松江	出雲	木次	川本	浜田	益田	西郷	総人数	モデル4センター	
									人数	割合
初発者	68	160	132	162	194	121	36	873	609	69.8
再発者	24	39	46	48	46	51	20	274	191	69.7
総人数	92	199	178	210	240	172	56	1147	800	69.7

図-7 年齢階級別脳卒中発症登録者数 (4センター H6～9年)



年齢階級別脳卒中発症登録者数では、男性は、60～70歳代の発症が多く、女性は70～80歳代の発症が多い。

壮年期の発症は、男性42.8% (586人)、女性28.0% (375人) と、男性では壮年期発症が約半数を占め、壮年期への発症予防の取り組み強化が必要である。

再発者は、男性28.4%、女性18.8%。ここでも、男性壮年期の再発者が多い

(2) 脳卒中発症者の病型別割合と発症者数（4センター H6～9年）

①脳卒中初発者と再発者の病型

図-8 脳卒中初発者の病型別割合（全年齢）

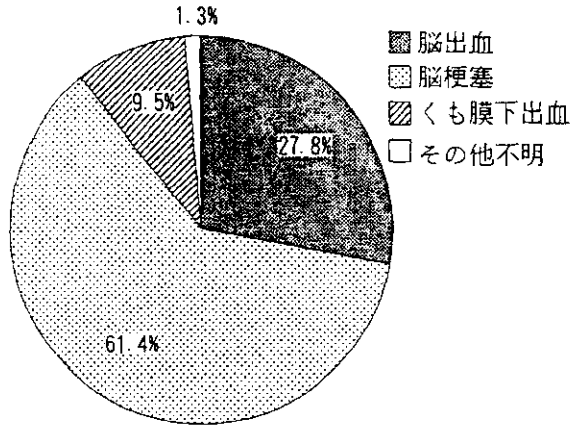
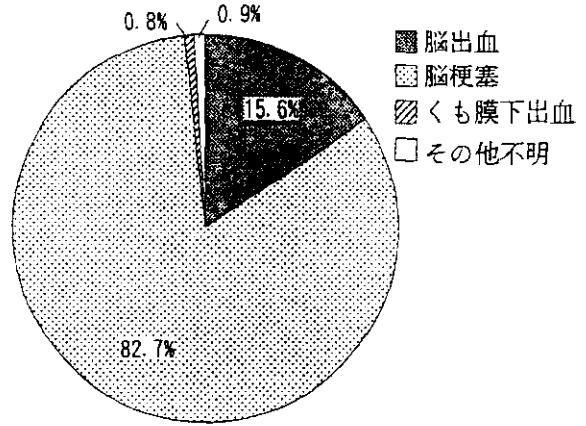


図-9 脳卒中再発者の病型別割合（全年齢）



②年齢階級別脳卒中初発者と再発者の病型別件数

図-10 年齢階級別脳卒中初発者の病型別件数

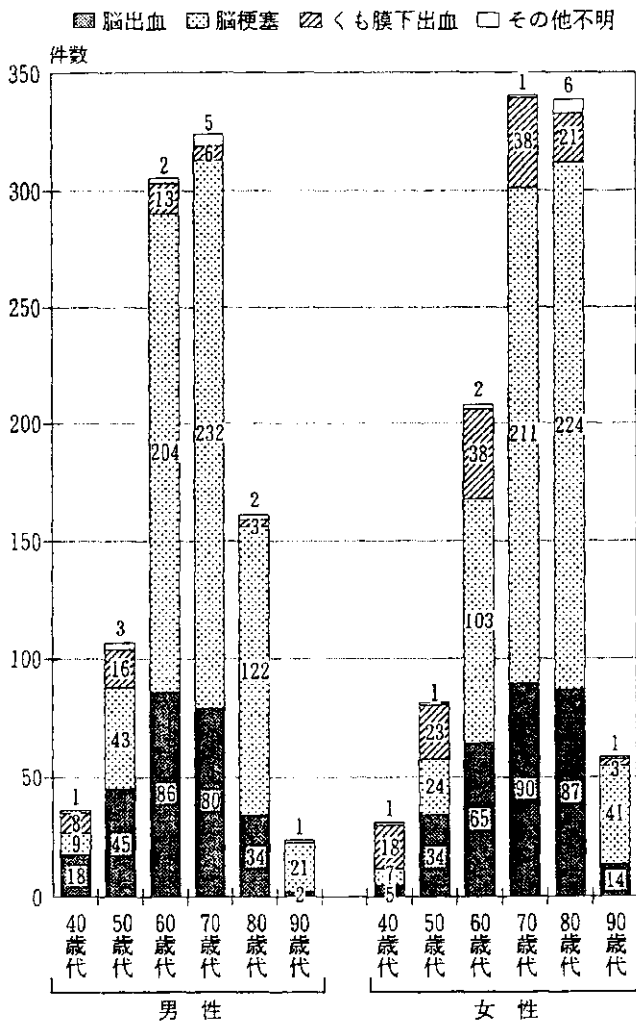


図-11 年齢階級別脳卒中再発者の病型別件数

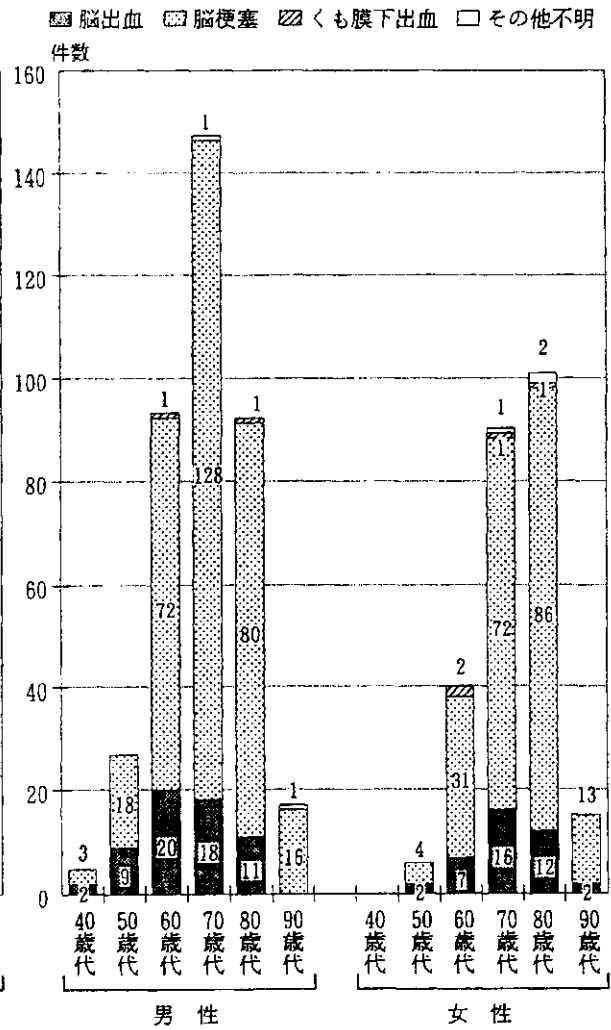


図-12 脳卒中初発者の病型割合

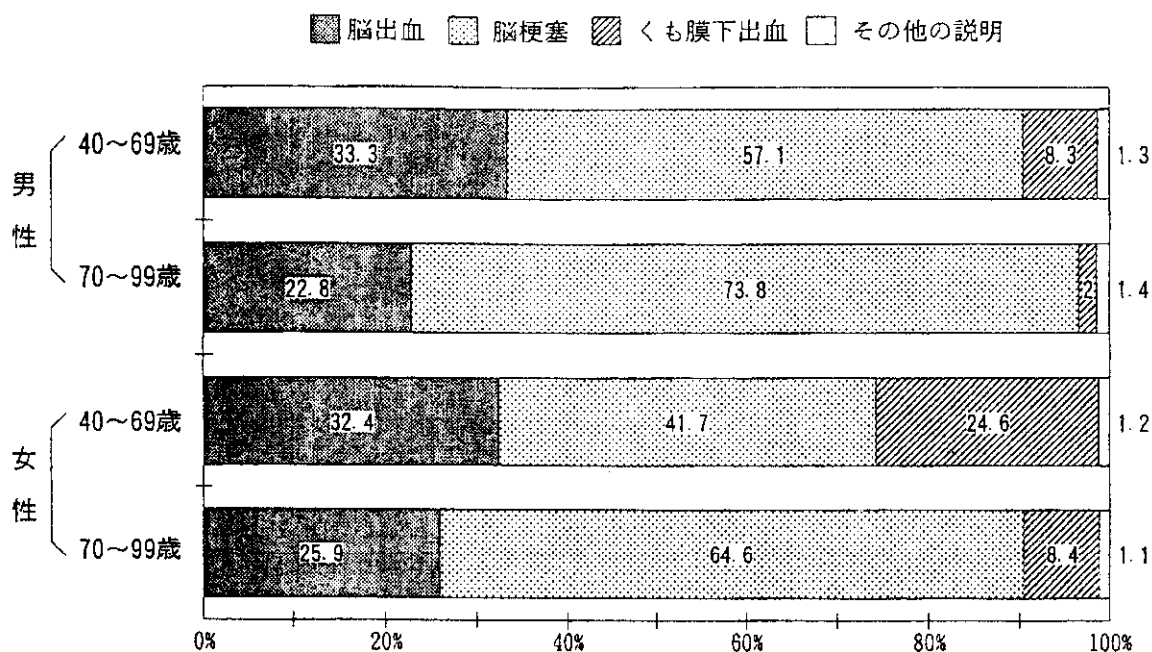
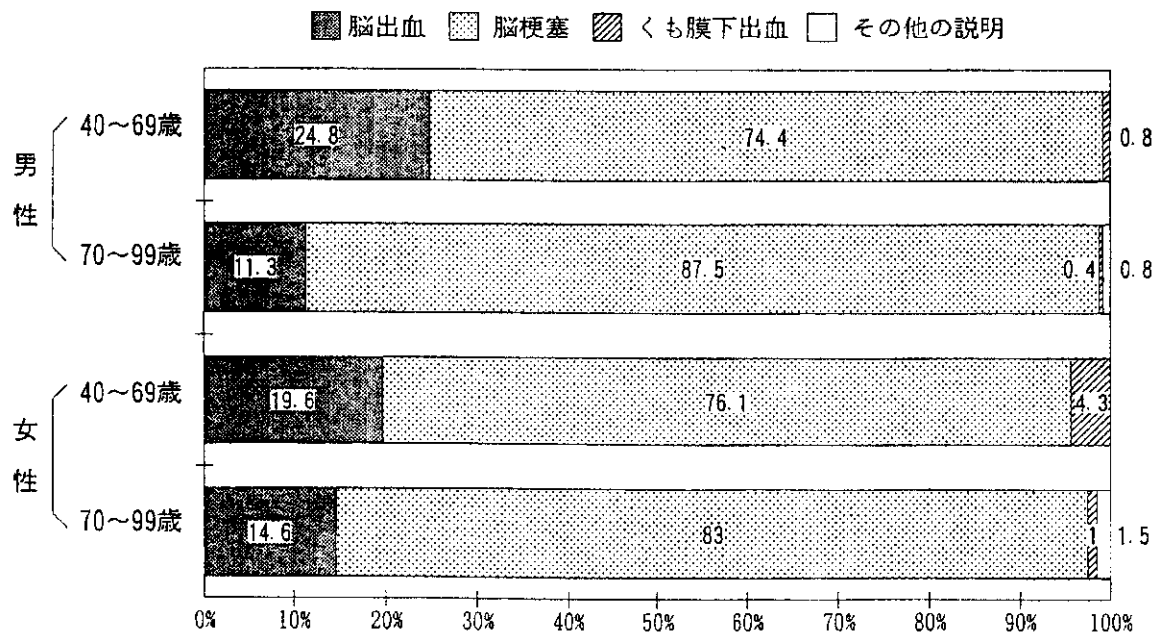


図-13 脳卒中再発者の病型割合



壮年期（40～69歳）では、高齢者（70～99歳）と比較して初発者、再発者の男女とも、男性は脳出血が多く、女性者は初発者にくも膜下出血が多い。

年齢階級別に見ると、女性は高齢になってくも膜下出血や脳出血が男性に比べて多い傾向にある。

3 モデル4センターの脳卒中発症者の退院時状況について

退院時の「転帰」「寝たきり度」「ADL」の状況について、初発者と再発者の比較を行った。

(1) 脳卒中発症者の初発・再発別退院時転帰

図-14 脳卒中発症者の初発、再発別転帰 (H6~9年)

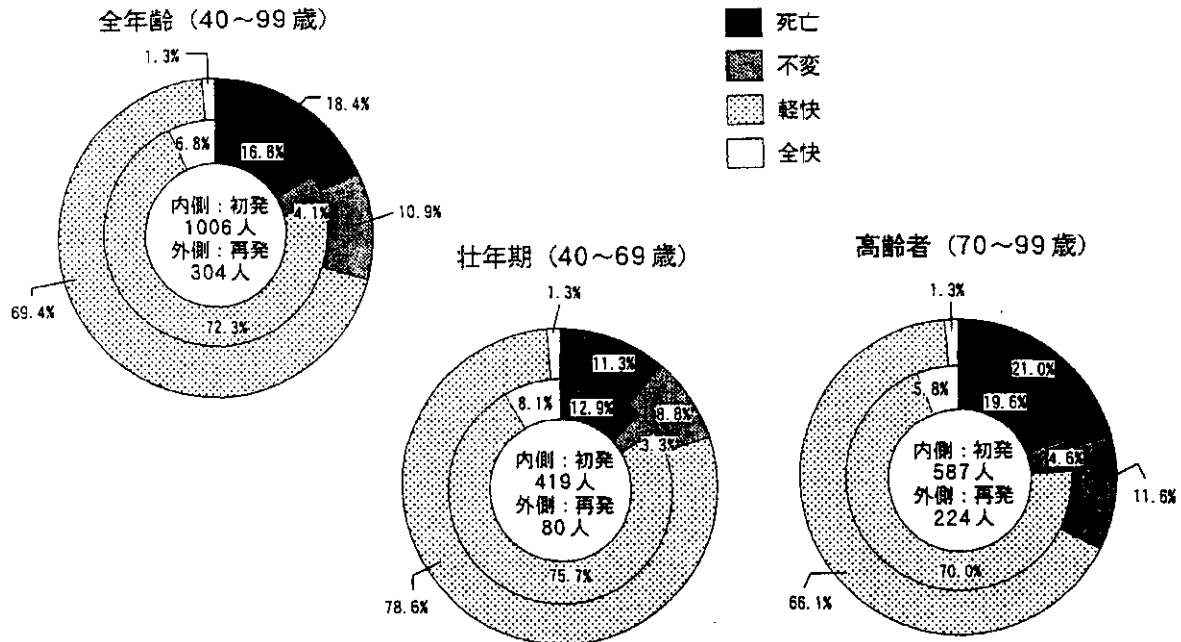


表-2 脳卒中発症者の初発・再発別転帰

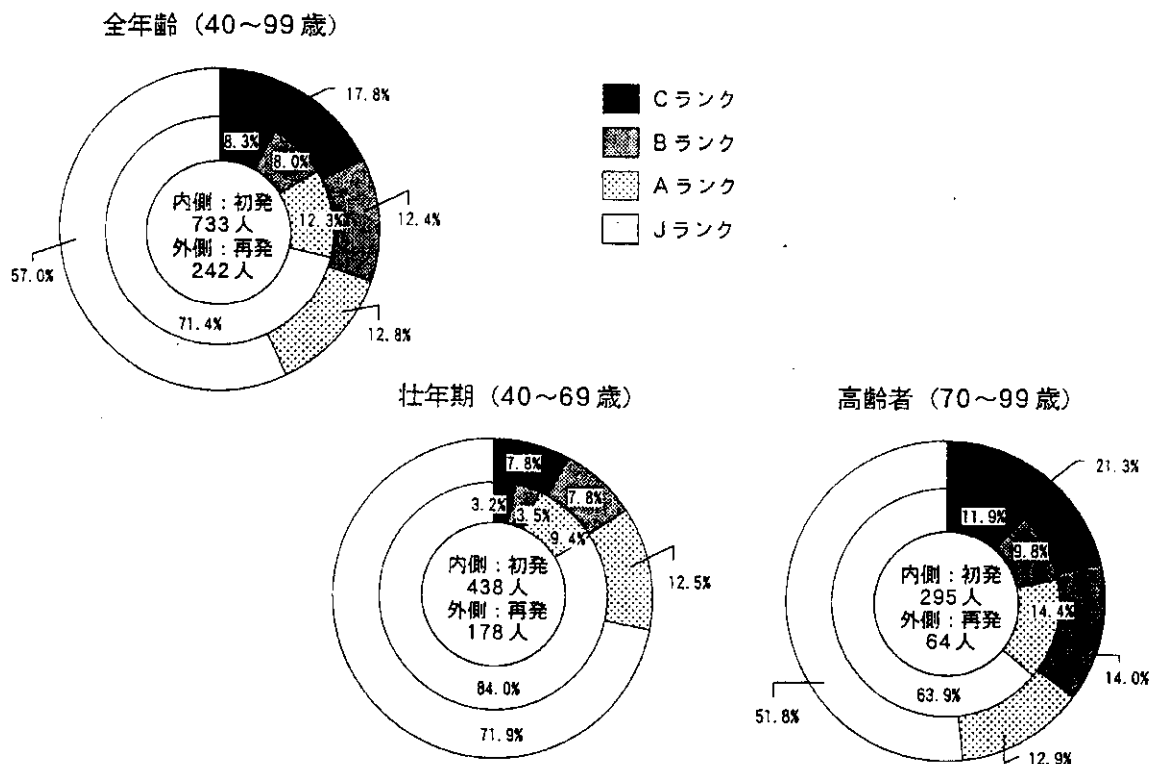
性別	年代	初 発					初発計	再 発					再発計	総計
		死亡	不変	軽快	全快	無記入		死亡	不変	軽快	全快	無記入		
男 性	40歳代	4	1	16	2	14	37	0	1	0	0	4	5	42
	50 "	7	2	40	7	51	107	2	0	14	0	10	26	133
	60 "	15	5	140	11	127	298	5	5	38	0	36	84	382
	40~69	26	8	196	20	192	442	7	6	52	0	50	115	557
	70歳代	21	4	117	10	161	313	13	9	54	0	63	139	452
	80 "	24	4	49	4	73	154	9	3	24	2	50	88	242
	90 "	4	1	7	1	9	22	3	0	9	0	4	16	38
	70~99	49	9	173	15	243	489	25	12	87	2	117	243	732
小計	75	17	369	35	435	931	32	18	139	2	167	358	1289	
女 性	40歳代	3	0	13	1	14	31	0	0	0	0	0	0	31
	50 "	10	2	28	7	34	81	1	1	2	0	0	4	85
	60 "	15	4	80	6	102	207	1	0	9	1	23	34	241
	40~69	28	6	121	14	150	319	2	1	11	1	23	38	357
	70歳代	24	2	131	9	165	331	10	4	29	0	41	84	415
	80 "	33	12	93	10	172	320	7	9	32	1	50	99	419
	90 "	9	4	14	0	32	59	5	1	0	0	8	14	73
	70~99	66	18	238	19	369	710	22	14	61	1	99	197	907
小計	94	24	359	33	519	1029	24	15	72	2	122	235	1264	
総 計	40歳代	7	1	29	3	28	68	0	1	0	0	4	5	73
	50 "	17	4	68	14	85	188	3	1	16	0	10	30	218
	60 "	30	9	220	17	229	505	6	5	47	1	59	118	623
	40~69	54	14	317	34	342	761	9	7	63	1	73	153	914
	70歳代	45	6	248	19	326	644	23	13	83	0	104	223	867
	80 "	57	16	142	14	245	474	16	12	56	3	100	187	661
	90 "	13	5	21	1	41	81	8	1	9	0	12	30	111
	70~99	115	27	411	34	612	1199	47	26	148	3	216	440	1639
総合計	169	41	728	68	954	1960	56	33	211	4	289	593	2553	

死亡及び、回復状況の割合については、初発者と再発者の間に軽快、全快に差はあるものの大きな差は見られなかった。

初発者、再発者共に、70歳以上の死亡割合は69歳までの死亡割合と比べると高くなっていった。

(2) 脳卒中発症者の初発・再発別退院時寝たきり度

図-15 脳卒中発症者の初発・再発別退院時寝たきり度 (H6～9年)



退院時の寝たきり度について全年齢の初発者と再発者で比較すると、Jランクの占める割合は初発者が71.4%、再発者が57.0%であった。Cランクの占める割合は初発者が8.3%、再発者が17.8%と逆転し、再発者に寝たきり者が多いことが分かった。69歳以下と70歳以上でそれぞれ比較した場合も初発者と再発者の間に同様の結果が見られた。

また、初発者・再発者共に、70歳以上のB・Cランクの占める割合が69歳以下の割合と比べると高くなっており、高齢になるほど脳卒中発症により寝たきりになる割合が高いことが分かった。

(3) 脳卒中発症者の初発、再発別退院時ADL

図-16 脳卒中発症者の初発：再発別ADL（全年齢 40～99歳）（H6～9年）

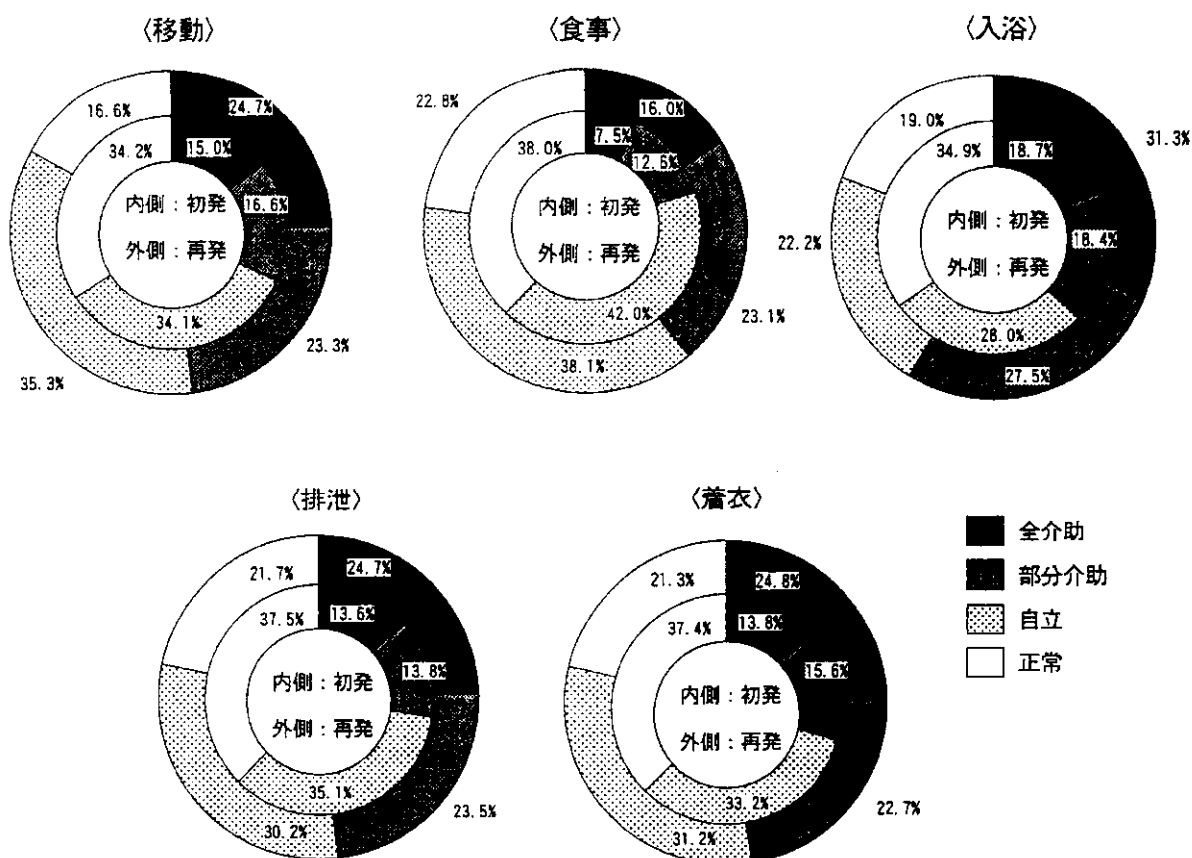


表-3 脳卒中発症者の初発・再発別退院時ADL

壮年期（40～69歳）

[移動]	全介助	部分介助	自立	正常	総人数
初発	7.0%	11.6%	33.0%	48.5%	388
再発	9.9%	17.3%	49.4%	23.5%	81
[食事]					
初発	3.1%	7.7%	37.8%	51.4%	389
再発	8.6%	9.9%	46.9%	34.6%	81
[入浴]					
初発	8.2%	16.2%	26.3%	49.2%	388
再発	12.3%	27.2%	33.3%	27.2%	81
[排泄]					
初発	5.1%	10.0%	31.6%	53.2%	389
再発	11.1%	13.6%	42.0%	33.3%	81
[着衣]					
初発	5.9%	12.1%	29.7%	52.2%	387
再発	8.6%	17.3%	43.2%	30.9%	81

高齢者（70～99歳）

[移動]	全介助	部分介助	自立	正常	総人数
初発	21.0%	20.2%	35.3%	23.5%	544
再発	30.5%	25.5%	30.0%	14.0%	200
[食事]					
初発	10.7%	16.2%	45.3%	27.8%	543
再発	18.7%	28.8%	34.3%	18.2%	198
[入浴]					
初発	26.4%	19.9%	29.5%	24.2%	542
再発	38.5%	27.5%	18.0%	16.0%	200
[排泄]					
初発	19.9%	16.6%	37.8%	25.8%	543
再発	31.0%	24.0%	27.0%	18.0%	200
[着衣]					
初発	19.6%	18.1%	36.0%	26.4%	542
再発	31.2%	24.6%	26.6%	17.6%	199

※グラフは資料編

5項目（移動・食事・入浴・排泄・着衣）について、それぞれ初発者と再発者の退院時のADLについての比較を行った。

そのうち脳卒中発症者の全年齢における移動の状況を見ると、全介助の占める割合は初発者が15.0%、再発者が24.7%であり、また部分介助の占める割合も初発者が16.6%、再発者が23.3%と、再発者の自立度が低くなっていた。他の食事・入浴・排泄・着衣の4項目においても同様の結果が見られ、再発によりADL全般に自立度が低下し、介助量の増加につながっていくものと思われる。

また、69歳以下と70歳以上でそれぞれ初発者と再発者を比較した場合も同じ傾向であり、寝たきり度の比較と同様に、高齢になるにつれ、ADLの自立度の低下が顕著に見られた。